



第 38 号

発行所

〒157-0065

東京都世田谷区成城1-13-1

武蔵工業大学付属中・高等学校内

電話 03-3416-4161

発行責任者 阿部俊夫

編集責任者 清水茂



本号に原稿を載せていただいた保健体育科の熊野先生は、団塊の世代

である私が中学生の頃に、日本が先進国の仲間入りと経済成長への道を歩む

切っ掛けとなった

東京オリピック

のメインスタジアムで栄えある陸上競技にスターターをされた実績をお持ちである。

私が母校を卒業したのが、このオリピック後三年程過ぎた頃です。最近まで幾度か他国でのオリピックも画像で観覧してきたと

『住民運動に参加して得たもの』

十四期生

清水

茂

国々の仲間入りということがあるが、国民をも巻き込んで

だ国是として「挙国体制」のもと明日に向かって希望を抱きながら夢を追いかけてきたことが懐かし

くもあります。そうして、その後の経済成長も目を見張るものでした。昨今（詳しくはバブル崩壊前後を含めた現

在まで）はといいますと、当時の「匍匐前進」の事実から一変してかなり消極的な「匍匐前進」へと社会全体が萎えてきました。バブル期までは海外からも戦後五十年で「良〜く」ここまで経済成長を成し遂げた。さらに奇跡でもあると評判は上々でした。これも国民の「勤勉」さのお陰ですよ。本当

です！
私は東京で生まれ都心で育ち今はその生家の猫の額ほどの土地に堅牢な建物を十五年以上前に建てました。当時を振り返ると立て替えた原因は土地価格の上昇に伴い、固定資産税が毎年の如く上昇

し、生活を脅かすこととなったからです。生活を支えるためにも立て替えるは必須となりました。不動産収入でしばらく生活は息を付くことができていたのですが、バブル崩壊後の平成六年頃から大分状況が一変してきたのです。

「固定資産税」が異常に高額となり収支バランスを保てなくなり、負担感が日増しに強くなっていったのです。同時にそれ以前のバブル期は土地価格の上昇に伴い、この固定資産税の上昇さらには相続税への危機感Ⅱ二重課税Ⅱ。付近の住人も相続税を支払うことができずに先祖代々の土地、また、商

(母校)創立50周年記念

懐かしい『写真で見るムサコーの歴史』

母校(高等学校)は昨年3月で満50周年を迎え、これを記念に写真集を出版しました。創立以来の貴重なスナップを集めた価値ある写真集です。是非、お手元へ。

〈規格〉A4版 23ページ
モノクロ・カラー

〈頒布価格〉¥1,500(郵送料込み)

振替料はご負担下さい。

〈振替口座〉00190-8-407552

〈名義〉「武蔵工業大学付属中高等学校同窓会」

〈部数〉在庫限り

〈申し込み方法〉

上記「振替口座」に直接お振り込み下さい。その際、必ず下記連絡先へTEL又はFAXにて卒業期・氏名・振込みしたことをご連絡下さい。

TEL・FAX.03-5707-2146 今井まで

売で収入を得ていた家屋も手放すということも出始めました。借入金を抱え相続税を少しでも抑えようと銀行からの勧め？も手伝い多額の借金で「ビル建築」や「変額保険」にとのめり込んでいったのです。その当ても国際化が今の首都機能移転と同様に既成事実の如く叫ばれました。

その後、バブル崩壊による影響がじわじわと家賃収入の下落や空室率上昇等で表面化し、借金もデフレ不況とともに不良債権化していったのです。企業倒産も年々増加し、収入も年々落ち込み借入金返済もままならない状況となり、さて「固定資産税は？」というバブル期から不動産市場価格は毎年のように下落の一途を辿っていたのですが、これがまったく下がらず、訳の解らない「負担調整措置」とやらで高値のまま。これは一大事です。

以前は地価に対して固定資産税評価額が二〜三割だったものが七割の評価をもとに課税することが国会で議決された。

私もご多分にもれずこの影響を

受け始め悩んでおりました。そこにたまたま地域商業地でこの過酷な税金で悩んでいる多くの住民を少しでも救おうと組織された「住民運動」の会を知り迷わず参加。事務局として協力することとなりました。これからです。長い戦いが始まりました。

前提として地方自治体（東京都旧自治省管轄）が固定資産税額を決定するに際し、当該土地の価格を不動産鑑定士に鑑定を発注、その評価額を基にして賦課するというシステムを知りました。これが曲者で鑑定がまったくでたらめ！基準地（当該地を評価するための基準となる土地）としての価格を約二倍で評価していたのです。しかし、この評価並びに税額に不服のある土地所有者は法令で三年に一度の評価替えの年（因みに来年平成十五年は評価替えの年）に不服審査申請（評価額）並びに審査請求（税額）を提出することができなのです。この提出を受けた固定資産税評価審査委員会（名目上は第三者機関）並びに審査庁が「口頭審理（陳述）」（所有者

が不服を陳述する場）を開催し、不服に対して調査・審査をし、処分庁（評価庁ともいう）（東京都）に対して是正を進言するというものです。

しかし、これ又開けてビックリ。第三者機関であるこの「審査委員会」がマッタクの形骸化された機関で「口頭審理」を重ねる度に評価側の評価法の矛盾点が露呈してしまい、これに対して委員会が機能していないことが判明。私たちの不服に対して進言の「し」の字もありません。全て「棄却」です。

新聞チラシを含め広報活動を進めるうちに住民の怒りが日増しに大きくなり、各新聞も取り上げるようになりました。

平成九年・十二年には不服審査申請は一二五名にも達し、弁護士さんにもお願いすることで行わゆる「行政不服審査法」に基づき「住民訴訟」が開始されたのです。

「裁判」ともなれば会も慎重に会議に会議を重ね「情報開示」で資料を請求する一方、その資料分析には当事者でもある街の不動産屋さん、協力してくれる不動産鑑定

士さん（貴重です）、法律的に支えていただく弁護士先生。さらに土地所有者である私たちや地域の住民の人たちと事務局役員のメンバーとの意見交換。忙しい日々が続きました。これらの事実に基づき一部の協力政党の皆さんにも議会で質問を依頼し、改善要求も提出。

東京地裁へ提訴してから三年半ほど、裁判審理の傍聴を重ねた結果、去る三月初旬、結審となり全面勝訴。結果、私たちの一部住民を原告とする不服審査請求に対する「委員会」の棄却決定取り消し訴訟は、この委員会に対して差し戻し審理をやり直すべく厳しい判決が得られたのです。

被告は、この事件については当然のこととして控訴手続きをし、上告しましたので私たち原告は気を許すことなく更なる勝利に向けて一丸となることとなりました。

今回、この固定資産税に対する不服審査申請訴訟を通じて「住民運動」へ参加することで「行政」に対してはまったく信頼できないということを改めて学ぶことができました。「情報開示」とはいうも

の都合の悪い所は塗りつぶされ
多々隠されていることで、いかに
行政のご都合主義に操作されてい
るかといつことす。

今日までの私たちの生活で十年
前、二十年前とどの様に変化し、豊
かになったかを考える上で国民の
努力の割には生活実感としての豊
かさが向上していかないと思うの
は私だけでしょうか。

昨今の報道を見るにつけ、議員
と官僚、そして応援団である大企
業との醜い癒着による税金の不正
な使い方や腐敗。その根底には世
界でも類を見ない苛酷で複雑にし
た「税制度」による国民締め付け
政策の仕組み。又、不平・不満も
語ろうとしない国民性。(最近の内
部告発等で闇に葬ることが不可
能になり、事実を認識することが可
能になった)

確かに右肩上がりの時代にこの
「取り易い所から取る」税金に恩
恵を受けていた産業も少なからず
存在することは事実ですが、その
裏で税金に無知な国民の陰に隠れ
て利権(代表的なのが天下り)を
漁る体質こそ、真に問われるべき

であると思います。

他の先進国諸国からは文句も言
わない不思議な国民「日本人」と
して失笑を買っていることも事実
として認識しておく必要もありま
す。これらが少しでも民主的に解
決していくことで政府や官僚では
なく国民が先進国の仲間入りを果
たすことができるのではと考えま
す。今こそ真の民主主義国になる
チャンスです。「世界の革命史は苛
酷な税金問題から発生している」事
実です。

この様な時節柄、なかなか時間
をさくことも難しいこととお察
しいたしますが、「誰かが何とか
してくれるのでは」との考えを捨
て去り、目標をひとつにした住民
運動等に参加されることも決して
悪いことではありません。さらに
価値観の異なる友人とも出見え、
飲み友達も増えるのでは。

固定資産税に関する矛盾点や運
動にたずさわり解明されたことの
詳細については、次号に紙面を確
保することができれば掲載する予
定です。

参考文献「酷税・驚愕のしくみ」小学館文庫



小西先生を偲んで

同窓会会長 阿部 俊夫

小西先生は三月二十九日ご逝去さ
れました。十年前に肝臓ガンの手術
をされ、それ以降職務に復帰され、私
ども同窓会につきましても常にエー
ルをお送りいただき、私ども理事会
役員にとりましても心強いバック
ボーンとなつていただいております
た。



金野和彦(前会長)
を偲んで

金野先輩は二期生として入学され
ました。二十六年前に同窓会結成の
気運が盛り上がった時に二期生の中
原氏と共に学年代表として会議にも
出席されました。日常は物静かでご
ざいでしたが、常に存在感があり、後
輩にとつては頼もしい存在でした。
二代目の村上理事長の下、副理事
長として同窓会の創世記を支えられ、
村上理事長の後を継いで三代目会長
(理事長制から会長制に変更)に就任
されました。

この頃から体調がすぐれず検査に
て入院される事も多くなりましたが、
いつも電話では的確なご指示をいた
だきました。また同窓会の役員の若
返りを図り、彼らの積極的な面を評
価していただいております。

先生は武蔵工業大学ご卒業後、早
稲田大学大学院に進まれ、その後武
蔵工業大学へ講師として戻られると
ともに設立直後の付属高校に教員と
して赴任されました。一期生、二期
生、三期生の諸氏には兄貴のような
存在で慕われていたと聞き及んでお
ります。大学へ戻られた後、六十年
代後半の大学紛争時でも「OBが真
剣にならないで、誰がやるのだ」と
当時学生であった私どもの中へ積極
的に入つてくれました。普段の柔
和さと周囲を思いやる真剣な眼差しに
触れたことを今でも覚えております。
お別れに際し、同窓生を代表して
「安らかにお休み下さい」と申し上げ
ます。

同窓会にとりまして先輩を失った
ことは非常に大きな損失ではござい
ます。しかし、これからも先輩のご
意見を継いで頑張つてまいります。
「安らかにお休みください」

合掌

第26回総会報告

総会日時 平成13年11月9日 18:30～
渋谷/エクセルホテル東急「プラネッツルーム」

2000年度(2000年10月1日から2001年9月30日)活動報告

- '00.11.17 第25回総会 於 東急文化会館内 中華菜館「花梨」
第1号議案～第5号議案 すべて原案どおり承認されました。
懇親会 於 中華菜館「花梨」
- '01.03.09 第1回理事会
①50周年準備報告 ②25回懇親会報告
③年間活動スケジュール
④その他 「柏」の発行のスケジュール 次回理事会開催予定
- '01.05.12 母校50周年記念行事連絡会議出席(阿部会長、塩満事務局長)
- '01.05.22 母校 水谷先生ご逝去 小野寺理事列席
- '01.07.20 第10回武蔵クラシック 千葉県PGAカントリークラブ 会員23名 教職員4名
- '01.07.27 第2回理事会
①『柏』37号発行の件 ②総会・懇親会 開催について
③50周年記念事業についての報告 ④武蔵クラシックの結果報告
- '01.08.30 第3回理事会
①『柏苑祭』の参加について ②同窓会25周年行事準備報告
③体育祭同窓会賞の件 ④『柏』38号発行の件
- '01.09.30～10.02 『柏』37号発送 5102通
- '01.10.07・08 柏苑祭参加
第4回理事会 「柏苑祭」の反省会他
- '01.10.26 第5回理事会
①総会提出議案書作成
②その他

2000年度(2000年10月1日から2001年9月30日)決算報告

一般会計報告(収入の部)

科目	予算	決算	内 訳
入会金	780,000	783,000	48期生261名
年会費	1,650,000	2,085,000	48期生261名、その他432名
引継ぎ金	2,239,868	2,239,868	前期より
雑収入	75,000	1,114	預金利息
合計	4,744,868	5,108,982	

一般会計報告(支出の部)

科目	予算	決算	内 訳
会議費	120,000	37,155	理事会5回
総会費	200,000	116,827	総会議案書、懇親会援助金
「柏」制作費	30,000	0	編集委員会2回
通信費	1,000,000	819,110	「柏」35号 @90 × 4,411 「柏」36号 @80 × 3,100 「柏」36号 @80 × 2,140 その他
印刷費	700,000	388,385	「柏」36号(9,500部) 205,700 その他
送付アルバイト費	200,000	140,000	「柏」34、35号送付アルバイト
事務費	40,000	27,278	
同窓会賞費	80,000	0	
小委員会費	25,000	0	
名簿整備費	50,000	50,000	

柏苑祭費	30,000	11,025	
H P制作費	200,000	0	
会員交流補助費	40,000	20,000	武蔵クラシック
予備費	100,000	10,000	水谷先生香典として
繰越金	1,929,868	3,439,202	
合計	4,744,868	5,108,982	

名簿会計決算報告

科目	収入額	支出額	内訳
前期より繰越	- 370,533		
名簿販売代金	8,200		
印刷費			
通信費			
次期繰越金		- 362,333	
合計	- 362,333	- 362,333	

第25回総会決算報告

科目	収入額	支出額	内訳
会費	115,000		合計入場者 会員38名 教員5名
寄付金	20,000		
会場打合せ		1,827	
懇親会費		250,000	花梨支払い
総会援助金	116,827		一般会計より
合計	251,827	251,827	

繰越金総額

一般会計繰越金	3,439,202円
名簿会計繰越金	- 362,333円
合計	3,076,869円

繰越金内訳

定期預金口座	638,516円
貯蓄預金口座	1,422,922円
普通預金口座	49,453円
郵便振替口座	27,468円
現金	938,510円
合計	1,869,335円

上記の通り2000年度の会計報告を致します。

2001年11月9日

会計 上島正義[㊞] 今井章久[㊞]

会計監査報告

上記、会計内容を監査の結果、正しく表示、掲載されていることを認めます。

2001年11月9日

会計監査 白井泰雄[㊞]

2001年度(2001年10月1日から2002年9月30日)予算案

収入の部

科目	予算	内訳
入会金	780,000	49期生260名×3000円
年会費	1,650,000	49期生260名×3000円 その他290名×3000円
引継ぎ金	3,439,202	前期より
雑収入	26,000	預金利息、 『柏』広告費、他
合計	5,895,202	

支出の部

科目	予算	内訳
会議費	120,000	理事会6回
総会費	200,000	総会援助金
「柏」制作費	30,000	『柏』制作委員会費
通信費	1,000,000	37号・38号郵送費、他
印刷費	700,000	『柏』、封筒、振込用紙、他
発送アルバイト費	200,000	『柏』発送アルバイト
事務費	40,000	
同窓会賞費	80,000	体育祭同窓会賞(図書カード)
小委員会費	25,000	小委員会活動費
名簿整備費	50,000	名簿修正、新会員記入
柏苑祭費	30,000	柏苑祭準備金
H P制作費	200,000	ホームページ制作費
会員交流補助費	40,000	武蔵クラシック
予備費	100,000	50周年実行委員会会議費、予備費
繰越金	3,080,202	
合計	5,898,202	



理事会報告

事務局長 塩 満 守(十九期生)

昨年は、新理事体制になって最初の一大行事である同窓会二十五周年の行事も無事終了し、気持ち新たに二年目の仕事を始めました。

今年は、より多くの同窓生に母校に関心を持って貰おうと、広く同窓生の方から意見を求め、より多くの同窓生に働きかけられるような事はないかと模索して参りました。

一、総会・懇親会報告

今年、母校創立ということで、当初、五十周年イベントも考えておりましたが、学校側としては、校舎の建て直し等の大きな出費が予定されていることもあり、今回は見送りとなりました。

しかし、同窓会の二十五周年は、会場を今までのゴールデンホールから渋谷エクセルホテル東急に移し、気持ちも新たに華やかに取り行われました。

参加者数は、期待していたほど伸びず、気持ち寂しいものとなりましたが、今年から新たに参加された方もおり、今後に期待を残すモノ

となりました。

今回は、今回の結果を教訓にもう少し早めに始動し、今まで以上に幅広く会員各位に働き掛けていきたいと思えます。

二、同窓生子弟の入学に関して

以前より、柏苑祭に同窓会として参加しておりましたが、毎年入学希望者が親子で学校を訪れ、同窓会の会場に立ち寄り、色々と質問をして帰られる光景が数多く見られました。

これを切っ掛けとして、同窓会からの働きかけもあり柏苑祭開催時、学校として正式に学校説明会が開かれる事となりました。

またこれとは別に、以前から卒業生の中で、ご自分の子弟をムサ校に入れたい…、入れようと思つて受験させたが残念ながら…、という話を良く耳に致しました。確かに今までムサ校で卒業生の子弟に関しての…、という話は聞いたことがありませんでした。最近、私の身の辺りにもこの様な話が聞かれるようになり、これは他人事ではない。もつと真剣に取り組まなくては。とのことにより、同窓生の意見を聞くと共に、柏苑祭等でも多くの同窓生にお話を聞きました。

実際、親子連れで柏苑祭を見に来て、改めて自分のおやじが出た学校に入りたいと言う子供や、どうしても自分の出た学校に子供を入れたいと言う同窓生が多かったことに驚かされると

共に、何とかしなくてはという気持ちも強くなりました。

最近のムサ校は大学の付属とは言えど、進学校としての路線を目指しており、進学塾の評価や偏差値偏重の傾向が出て参りました。これにより同窓生の子弟と言えど、受験競争を潜りぬけなくては憧れのムサ高生にならない現実が待っています。

これでは同窓生の支持や協力というモノは得られるはずありません。このような状況が続く限り、昔の良き時代のムサ高文化も徐々に失われつつあります。これからの少子化の時代、やはり学校を支えていくのはOBの力が大きいはずです。

この様なこともあり、数年前より学校側と交渉を重ね、昨年非公式ではありますが、学校側より同窓生の子弟に関しての特別枠を設けるといふ回答を得られました。

そして今年には五名の同窓生の子弟が晴れて新中学一年生に入学致しました。

確かに優秀な生徒を集めるといふ学校側の趣旨は分らないではないモノの、果たして一発だけの試験の成績で入ってくる生徒の全てが優秀とは限りませんし、そこそこの学力を持って入って来る生徒に対して六年間という時間をかけて磨き上げるのが教育のプロ集団、教員の集まりである学校の腕の見せどころではないかとも思います。

そういう意味でも同窓会としては、行きすぎた偏差値重視での受験競争の中で、他校の滑り止めで自分の意志に反して入ってくる生徒よりは、動機は別としても、ムサ高が気に入って、自分の親父が出た学校にどうしても（絶対）入りたいと言う純な気持ちを持った子供達を受け入れることも長い目で見て、学校にとつてもメリットは大きいと思うのです…。

学校側には今後とも折衝を重ね、より多くのムサ高二世（三世）が誕生するように努力していきたいと思う。

三、同窓会（子弟がムサ高生の）開催

昨年暮れ（十二月二十五日土曜日）、ムサ高一号館食堂に於きまして、第一回の同窓会（親子二代ムサ高生の）を開催致しました。

今まで学校側としても同窓生の子弟が在校生の中に何人居るかその実態は掴んでおりませんでした。今後、学校の運営に関しても、卒業生ということ、一般の父兄とは、ひと味もふた味も違った意味で助言・協力が出来るのではないかとという意味も含め、学校側の協力の下、開催することが出来ました。また、ここから親子二代に渡る新しいムサ高の文化が生まれて来る事を確信致しております。この会は今後出来る限り続けていきたいと思っております。なお、四月十日現在、親子二代に渡るムサ高生は三十四名在籍致しております。

昨秋十月七日、八日の両日開催された母校文化祭「柏苑祭」に例年通り展示部門で参加。

毎年、来年こそ充実した「部屋」にと事務局は悩むのだがアツという間に一年が過ぎる。いつも乍ら直前にバタバタとしてしまう。今回で七回目の毎年参加となり何となく定着してきたと思うが。母校から見ればもっと「OBらしい企画」と期待され続けているようにも思うのだが？

企画案は理事会で議論だけは進むのだが何しろ全員仕事を持つ身が故、一同そろって準備という訳にはいかないのが実情。大反省。お手伝いお願いできる方募集します。

第43回柏苑祭に参加して

副会長 中澤 宏 (13期生)

今回、一九六四年東京オリンピックでスターター経験をお持ちであり、ご本人もランナーであった熊野先生の講話をお願いし、在職中の陸上部の先輩、後輩部員も集合。

当時のエピソードやスタートピストル、内輪話等を披露された。定年されるということで部員の方々より感謝に花束を添えてお送りした。

第44回「柏苑祭」

当日、母校を訪ねて
みませんか！

日時 平成14年10月5日(土)・6日(日)
場所 武蔵工業大学付属中・高等学校
(小田急線成城学園前駅下車徒歩10分/
田園都市線二子玉川駅よりバス20分)

新校舎 教室未定

- 本校の歴史、卒業アルバム、その他企画検討中
- 喫茶コーナー
- 進学・入学コーナー

○同窓会として会員ご子息の母校への進・入学のご希望に対してアドバイスいたします。ご遠慮なく。

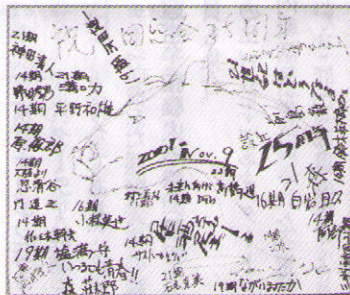
○学校側としても進学・入学相談コーナーを柏苑祭当日設けます。是非、ご子息とお出掛け下さい。



懇親会報告

神田 清人 (二十一期生)

二〇〇一年十一月九日、武蔵高生が渋谷に集合した。今回の会場は初めてのエクセル東急ホテル。真新しい宴会場で同窓会総会が議事進行に従って行われた。その後は恒例の懇親会だ。今年も同窓会二十五周年ということもあり、懇親会と合わせいくつかの期で非常に効率よい同期会があり、次回も予定している期もいくつかあるという。二十五周年にあたり、同窓会に貢献した会長の方々が紹介され、出席者全員で色紙をつくりあげた。同窓会の歴史に残る大きな財産となるであろう。懇親会の最後はこれまた恒例の「じゃんけん大会」だ。幸運にも商品を手に入れた人も、残念ながら手ぶらで帰る人もいたが、全員が持ち帰ったお土産は「武蔵高の風」だったのではないだろうか。二〇〇二年の十一月も「武蔵高の風」を楽しみに皆で集まろう！



第11回武蔵クラシック開催のご案内

- 開催日 平成14年7月20日(祝)
- 会場 未定 (関東近県)
- プレー代 各自負担 (金額未定)
- 会費 3,000円 (懇親会費は別途)
- 参加人員 定員20名(5組) 予定



● 連絡先 実行委員 宮原 茂 (24期生)
TEL 03-3703-1541

是非、今年も奮ってご参加下さい。
ご連絡をお待ち申し上げます。

本年度の総会・懇親会は

平成14年11月8日 (金)
午後6時30分より (遅刻可)
会場 渋谷・エクセルホテル東急
(渋谷マークシティ内)



我が人生に悔いなし。石原裕次郎の歌にこんな歌詞があったの
を思い出す。
桜の花の下で見る・夢にも似
てる人生さ

純で行こうで・愛で行こうで
生きてる限りは 青春さ

愛だろうと現実(うつつ)だろうと・わが
人生に悔いはない

わが人生に悔いはない

私は山口県は下関の長府(日露戦争で有名な
乃木將軍の町)に昭和十二年五月七日に町で
はマラソン一家と言われた五人兄弟の末っ子
に生まれた。

子供の頃体が弱かった自分に父親が心配し
て進めてくれたランニングで、中学の全校マ
ラソン大会に二位になった事がきっかけで高校
では陸上競技で名前を知られるまでになった。
体育の教師を志して日本体育大学に進み、箱根
駅伝を目指し努力もしたが残念ながら箱根路を
走ることは出来なかった。卒業し東京に残りた
くて就職が決まった学校は世田谷(宮ノ坂)に
ある鴎友学園という女子校だった。私が勤めた
年が昭和三十五年なので今振り返ってみると四
十二年前の事になる。男の世界と言ってもけっ
して過言ではない荒々しい大学から、勤めた学
校としては(当時はお嬢さん学校)少々戸惑い
があった。早々に体育の授業を受け持った学年

は高三だったので自分との年の差もわずかで都
会の女子高生は大人っぽく、おませで時にはお
姉さんに見えたときもあった。その頃を思い出
すと私も若かった。体育の授業も生徒とグラ
ンドで思い切り動き、放課後は陸上部の指導で生
徒と共に走り、疲れなどまるで知らなかった。
体育の教師は身体が動くかぎり生徒と共に動く
ことが教師の魅力であり勤めであると考えてい
た。この考えは今も同じである。女子校も華や
かで私にとって居心地の悪い所ではなかった。
陸上部では三回の全国大会にも出場できプライ

私の過去

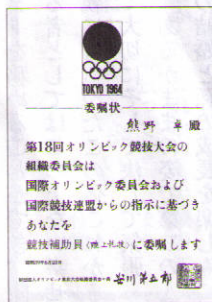
定年退職を迎えるにあたって

熊野 卓(保健体育科)

ベートでは一九六四年の東京オリンピックにも
審判として参加する事もできた。

昭和四十一年、勤めて六年目のある時期、「突
然」私の人生最大とも思える事件が起きた。世
間でよくある女子高校生との問題があった訳で
はない。(文章の上ではその方が面白かったか
も知れませんが…)私にとっては深刻な問題
でした。悩み・苦しみ、いろいろ先輩にも相談
もした。しかし解決の道は一つしか無かった。
当時、鴎友学園の校長(石川志づ)先生との涙
の別れで四十二年の春退職することとなった。
世田谷区内での教員の異動は許されない事で、

校長同士の取り計らいにより武蔵工大付属高校
に縁あって四十二年に再就職することができた。
七年の教師経験があるとはいえ新天地での再
出発、初心の気持ちで頑張りました。教えるこ
とに女子も男子も変わるところはありませんで
した。授業に陸上部の練習に試合にと、めまぐ
るしい毎日でしたが、一日一日がとても充実し
ていました。当時陸上部の顧問は中高で私一人
だったので土日となると高校の試合(立川競技
場)・中学(武蔵野競技場)と競技場めぐりの連
続でしたが試合で良い結果を出してくれること
を楽しみに私には生きがいでした。努力のか
いあって四年後の四十五年の春には四百Mリ
レーで日黒・駒場高校に続き東京都三位とな
り関東大会(三つ沢)に初の出場で生徒と共に
に抱き合ってくれたことを昨日の事のように
思い出します。これをキッカケとして後輩達も
順調に伸び陸上競技では都でも強い学校として
認められるまでになりました。やがて高一で百
Mで十秒九で走る生徒(三十二期三好知司君)
も生まれ、彼は奈良国体で十秒八と記録をのば
し武蔵工大に進み武蔵工大付属生としては初の
関東インターカ
レッジ(〇〇M選
手権保持者とい
う素晴らしい記録を
残しました。四十
六年我が人生にも



熊野 卓
第18回オリンピック競技大会の
組織委員会は
国際オリンピック委員会および
国際競技連盟からの指示に基づき
あなたを
競技補助員(準主審)に委嘱します
武蔵工業大学 武蔵野校 熊野 卓



やつと幸せがやってきました。結婚です…。

七年間の女の園、あまりにも女性ばかり見てきたせいか???好きになった生徒がいなかった訳ではありませんが…:結婚を少し過ぎた男三十四歳と十四歳年下の彼女との恋に相手の親はすんなりとは結婚を許してはくれませんでした。だが…:やがて当時の校長(長浜恵先生)の仲人でゴールインすることが出来ました。やがて熊野家にとっては男の子に恵まれなかった男児の誕生に喜んだ事を思い出します。今ではその長男にも二歳五ヶ月になる男の子と八ヶ月になる女の子がいます。ここ迄には何回もの挫折もあり、退職をも考えた重い病魔との闘いもありました。でも今は教師になってやがて四十二年最後の学年を送った喜びで少しは元気です。いやこの学年の生徒諸君からパワーをもらい、そして彼らに勇気づけられながらここまでこれたのだと思います。体育の教師は健康で元気な

くてはいけないと常に思っていました。弱く今の自分につくづく嫌になる事もあります。しかしそんな事でどうするのかと、もう一人の自分が喝をいれるのです。今年卒業したわが学年の生徒達が一人一人の目標に向かって進み、立派な大人として成長してくれることを切に祈りつつ、私の教員生活を彼らと共に卒業できたことを喜びたいと思います。

私の武蔵工大付属教員生活の三十五年間、家庭も顧みず女房にはずいぶん苦勞をかけたが、前半の二十五年間はまさに陸上競技に明け暮れた人生だったように思います。生徒と共にグラウンドで過ごした数々の思い出、私にはかけがいのない大きな財産です。スターターとしてカールリス・ベリンジョンソン・故フローレンス・ジイナ、九二世界選手権では二〇〇M決勝でのマイケル・ジョンソンらの



全盛時代のスターターを務めることができ、陸上競技にたずさわる者としてはこの上ない幸せを感じます。…:親にももらったこの体これからは健康に気をつけて大切にそして決して気張らず肩の力をぬいて、あるがままの姿で第二の人生をやがて来る娘の結婚と孫の成長を楽しみに…:私の青春時代は石原裕次郎であり長嶋茂雄でした。これから残された人生を明るく楽しく「わが人生に悔いなし」と言えるように生きたいと思えます。今も自分を生んでくれた両親に感謝しています。

現在も陸上部の顧問として素晴らしい桜井利昭先生がきめ細やかな指導をされています。これからも応援よろしく御願ひ致します。最後に同窓会の益々の発展と同窓生の皆様のご健康とこれからの益々の御繁栄をお祈りし終わりに致します。

三十五年間色々とお世話になりました。ありがとうございました。深く感謝もうしあげます。

原稿募集

編集委員会では、同窓生の近況等、皆様の原稿を待っています。“懐かしい顔”コーナー・随筆・漫画等々幅広く記事を探しています。

編集部：清水 (14期生)
TEL.03-3595-0058
FAX.03-3595-0021

神田 (21期生)
E-mail:
kanda@tka.att.ne.jp

懐かしい顔



中村 健二
① 一期生

一九五一年四月〇日 晴れ？

武蔵工業大学（旧武蔵工業専門学校）付属高等学校入学式。東急大井町線尾山台駅を黒い制服に黒い帽子、金色の校章と金色のボタンの新高校一年生。母親と一緒に緊張しながら玉川の方向に歩き出しました。住宅の庭先の花が咲き匂い、とても印象的でした。ゆるい坂を下って行くとき、やがて当時では高校の建物らしくないギリシャ柱風の威風堂々とした大学の正門に圧倒され、その上校内で会った大学生が何と大人っぽく見えたことか。まだこの前の様に目に浮かんできます。当時のクラス員の顔もくっきり思い出します。当時高校が開校したばかりで、一年生が一クラスだけしかなかった事を後で知りました。

当欄では毎号、皆様から多大なるご協力をいただき、懐かしい同窓生の現況・思い出などを掲載させていただいております。

その顔はそれぞれの仕事を成し遂げた自信にあふれ深みも増し、落ち着きとキャリアの重さも出たすばらしい顔になっていました。やがて酒が入り宴たけなわになる頃には、すっかり昔の高校生に戻ってしまいました。クラス会の楽しみは同時代に生きてきた共通なところ。年老いても魅力ある顔に会える楽しさ、懐かしい昔話に一喜一憂したりする等、魅力が沢山あります。また、この年代は四〇年近く組織に拘束された生活を送った人も多く、今後はできる限り自由な生活を送り第二の人生を謳歌しようと思います。



村石 喜一
① 十五期生（昭和四十三年三月卒）
② 田中求先生

我が高校時代に思いを馳せてみた。時は昭和四十年四月、高校からの入学で現在の場所へ引越した後の一期生である。外様はE組（田中求先生）。中高一貫教育の遅れを取り戻すために、E組は七月中の夏休みを返上し、蛙（ハツカネズミ？）の解剖等…。秋は体育祭。浴衣を着て花笠音頭を踊ったと思う。クラブ活動は三年間卓球部。対外試合で勝つ

た記憶はないが、三年間の皆勤賞を貰った事から、体力増強に多いに役立ったんだろう。合宿は軽井沢と千葉のマザー牧場。卓球の宿命で真夏に窓を開けられない（もちろん冷房など無い）室内で汗だくの練習のきつかったこと。同期の大熊・中島・須山……どうしているか。

高二からは外様も混成のクラス分けて、私はC組（担任…英語の村岡先生）。七月に北海道への修学旅行。だがスタートでいきなり台風の洗礼を受け、水戸で立ち往生（当時は飛行機ではなく列車の利用）。その後、東北線で一路青森を目指したが不通区間があり、一歩手前の浅虫からはバス。夜の青函連絡船で渡道（まだ青函トンネルは無い）。これらのトラブルで函館泊が無くなり、函館山からの夜景が見られなかったのが残念。道内（道南）はほとんどバスで移動。定山溪、摩周湖、原生花園等。何を修学したかは覚えていないが、摩周湖で霧が晴れ、湖心の小島（カムイツシユ…神島）がくっきり見えた時の感動は忘れられない。

高三になっても付属校の特権で受験勉強無しの学生生活を満喫。自分にとって悔いない三年間だった。

つれづれに高校時代を振り返ってみたが、柏苑祭の思い出が無い。三年前に「柏」で柏苑祭のスケジュールを知り、息子（当時四年生）を連れて覗いてみた。鉄研にいたく興味を示していた。中学受験を考えていると息子がムサコ

に行きたいと言いだした。通学時間が一時間を越えるので大変とは思ったが、息子の希望を優先し、受験。この四月晴れてムサコ生。そんなわけで、これから六年間は柏苑祭におつきあひすることになるだろう。私同様、ご子息がムサコに入られた方、結構いるそうだ。今年は六名とのこと。

十五期生諸君、思い出を共有できただろう。柏苑祭OBコーナーへの来場、「柏」への投稿を待っている。



野島 富雄
①十九期生（昭和四十七年卒）
②桜庭先生

時は経つのは早いもので、私がムサコを卒業して三十年が過ぎました。当時の一番の思い出は、今はない生物部の夏の合宿でしょうか。何の制約も受けずに生き物だけを見つめていられた幸福なときでした。

しかし、当時のムサコは規律がきびしく硬派の先生方が多くいらつしやいました。特に体育科の先生方、前島先生（現教頭先生）、桜庭先生の印象は強いものがありました。そんな中、生徒達もそれなりに「はめ」をはずすもので、私など何度もバイクや自転車で行く学校近くまで乗って行つてはスリルを楽しんでいたものです。ところで、思いがけず、近年ムサコに足を運ぶ機会がふえました。四月から高一になる二

男と、中学入学の三男がムサコに通っているからです。特に二男は、活気があふれている子なので、多くの先生方にかわいがられ、ひいては私もかわいがられたいというわけですね。二男は入学時からバスケットボール一途で、そこまで熱中できるのがうらやましいと思えるほどです。試合のたびに母親が応援に行き、次には父親の私も行き、その次には兄が友達を連れて行き、最終的にはいとこを含め一族郎党旗を振りたいたいの勢いで応援しています。息子の部活にかこつけ家族皆で楽しんでいっているというわけですね。

卒業後皆が自分の人生に一生懸命だった時期が少し落ちていたのか、二男の入学時から当時の仲間との交流が復活しました。毎年七月二十日の先生方とOBのゴルフ「武蔵クラシック」では皆がムサコ生にもどって楽しんでます。個人的にも当時の悪友達と付き合いが再開し、青春時代の続きを楽しんでいます。

当時の先生方で現役筆頭の前島教頭先生を含め、何人もの方々が勇退のさかいめにおられます。元生徒にとつては学校へ行けば先生方に会えると思ひつたのですが、仮に現役を退かれましたも私の中では、ムサコと先生方の思い出はいつまでも不滅です。息子達も私のようにつき合ひの輪をつなげていくことでしよう。先生方、今後とも、よろしくお願ひします。

編集後記

巻頭は編者が現在に至るまでの六年半に及ぶ「住民運動」に携わり実体験を通した報告の一部です。読者で不動産を所有（住宅・マンション・商用問わず）している方には必ずや参考となるでしょう。今後の展開は後日、さらに詳しく報告することとします。「取り易い所から取る」「土地は逃げない」政府の税収源を土地価格の上昇（公示価格の操作）に頼ってきた政策が、すでに限界を迎え、バブル崩壊という現象を生み出し、現在の不況となったことも明らかになりました。政府に対しては「増税」を語る前に私たち国民が税金の無駄使いを真に問う段階へきたことが今後の日本の将来を左右してゆくこととなるでしょう。

働き手である国民のリストラ・失業では今後どのように国が税収を上げようと物理的に無理なことは、至極当たり前のこと。政治や、官僚の特権意識や利権にもさらに厳しい目を光らせることが絶対に必要なのです。私たちの労働力があつての国であり、税金ですよ！

同窓会発足二十五周年ということでの昨秋の総会は新たな会場で開催。なかなかの評判でした。会費は破格で料理も一流。懐かしい顔では、母校にご子息を在籍させている会員の方にも、親子二代に渡って同じ先生に授業を受けた方もいることでしょう。今後の編集にも同窓生の皆さんからの忌憚のない投稿をドシドシ届くことを待っております。

清水茂（十四期生）